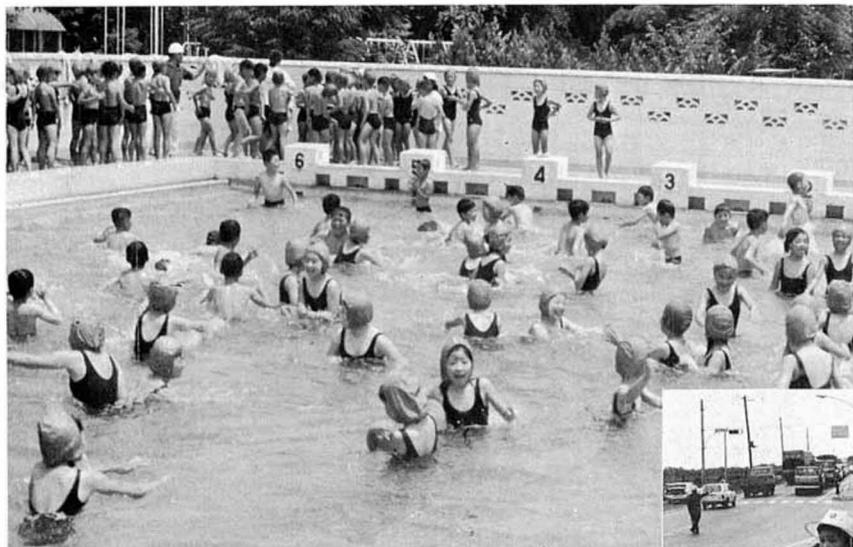


広報  
  
 くにみ

編集 国見町役場  
発行

昭和48年7月1日

No. 2



## 子どもを事故・犯罪・非行から守ろう

### 事故をなくして

### 楽しい夏休みにしよう

子ども達にとって、楽しい夏休みがや  
ってきます。

のびのびと自由に遊びまわるのは楽し  
いですが、つい気もゆるみ、夜ふかしな  
どもしがちです。

例年この時期には、事故や非行が多く  
なっております。

事故などにあわないようみんなで注意  
し、楽しい夏をすごそう。

### 守ろう

### 五ツの目標

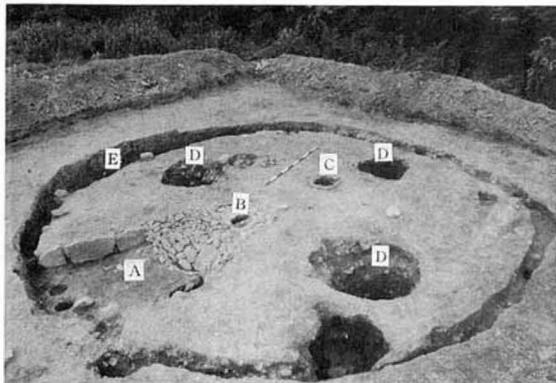
- ◎交通事故から、子どもを守ろう。
- ◎水の事故から、子どもを守ろう。
- ◎花火の事故から、子どもを守ろう。
- ◎シンナー、ボンドから子どもを守ろう
- ◎悪い環境から、子どもを守ろう。

人口と世帯数	
男	5,825人
女	6,059人
計	11,884人
世帯数	2,693
48. 6. 1 現在	



# 日本一の大さき

## 岩渕遺跡の炉



写真説明  
 A 復式炉 (長さ 3.2メートル)  
 B うめがめ (直径 30センチメートル)  
 C 炉 (直径 60センチメートル)  
 D 柱穴 (直径 1メートル)  
 E 周溝 (深さ 20~30センチメートル)

国見町における縄文時代の生活の様子をつかむための資料は、これまであまりよくなかったが、町史編纂を機に資料の総点検がなされ、また新しい資料の収集もはかられ遺跡の調査がはじめられた。

これまでに縄文時代のものは山田遺跡、竹の内遺跡などが調査され、多くの成果が得られているがこのたび偶然の機会から岩渕遺跡が、町史編纂専門委員である目黒吉明氏(県文化課主査)の目にとまり調査されることになった。

場所は大字高城字岩渕地

内の後藤忠一氏所有の桃畑で、発見されたのは遺物の他に住居跡(遺構)である遺構が明確に出土したのは国見町で初めてである。

平坦な土地を円形状に三〇〜四〇センチ程掘り、その周囲には溝がめぐらされている。住居跡の大きさは直径が約七メートル、炉(復式炉という)の長さは三・二メートルあり現在発見されたものの中では日本一の大さきである。また住居跡内には直径一メートル程の三つの柱跡の穴もあり一・三〜一・五メートルの深さに掘られている。

この住居跡は一時代のものだけでなく、多少ずれたが三つの住居跡が重なっていた。上は平らな石を敷きつめた敷石住居跡でかなり破壊されており、二番目のものは復式炉をもつ住居跡で、下が前

記した住居跡である。

この調査で、縄文時代中期末(約三五〇〇年前)にこの地方の人々が、どんな住居に住んでいたかの一端がおぼろげながらも想像つかるところまでわかり、町史編纂にとって貴重な資料を得る重要な遺跡である。

このたびの調査には地主、後藤忠一氏をはじめ、多くの方々の援助を得ましたこと、厚くお礼をのべたい(町史編纂室)

### 「ウシ君」の

#### 楽園開設

##### 町営牧野

この町営牧野は、昭和三十七年七月に北山組合の山林五〇ヘクタールを借受け放牧希望者で利用組合をつくり、国見町農協が管理主体となって野草を主飼料に昭和三十八年六月より放牧してきたが、草不足になり町当局及び関係者が一丸となって本格的草場造成事業を計画し、県単事業で三ヘクタールの草地造成に成功しました。

野草と牧草、濃厚飼料で毎年二五頭から三〇頭を基準に昭和四十五年まで放牧してきましたが、その間四

十四年に肉用牛振興地域の指定を受けたのを機に、放りまく山々に映え、ほんとうに美しく、ウシ君達の楽園の感じですよ。

自然の中でウシ君達は健康に、夏を過ごすことできるよう。



今年五月三十一日に三十五頭の牛を放牧しました。標高六五〇メートルの高地に広々と開けた緑の草野に

### お悔み申し上げます

(五月中に亡くなられた方 敬称略す)

死亡日	氏名	年令	住所
5/20	佐藤 漢	70	森山 西国見2
23	村上 キク	65	徳江 佐野台20
25	菊地 サン	87	塚野目林10
28	菊地 繁	75	藤田 北75

